

5 団体による国際シンポジウム

「Accelerating Innovation and Access in Global Health Technologies ~The latest progress in the fight against infectious diseases~」を開催

感染症対策の最前線におけるイノベーション推進とアクセス改善について有識者が議論

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(以下MURC)は、Foundation for Innovative New Diagnostics (FIND)、公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT)、国際エイズワクチン推進構想(IAVI)、感染症対策イノベーション連合(CEPI)との共催により、去る2月25日に「Accelerating Innovation and Access in Global Health Technologies ~The latest progress in the fight against infectious diseases~(邦題:グローバルヘルスの新規医療技術のイノベーションとアクセス~感染症対策の最前線~)」と題したシンポジウムを開催いたしました。当日はグローバルヘルスに携わる学術・研究機関、国連機関・国際機関、政府関係機関、民間企業(医薬品・ワクチン・医療機器メーカー等)、NGO等より100名を超える方々にご来場いただき、診断、サーベイランス、ワクチンそしてアクセス&デリバリーに関するイノベーションについて活発な議論が行われました。



開会挨拶を行う村林代表取締役社長



基調講演を行うデイヴィッド・ヘイマン教授

※シンポジウム詳細は、添付の参考資料をご覧ください。



パネルディスカッションの様子
(モデレータ:新事業開発室 小柴)

【本件に関するお問い合わせ】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
ソーシャルインパクト・パートナーシップ事業部 マネージャー 國光 智子
〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2 オランダヒルズ森タワー
TEL:03-6733-1720 E-mail:tomoko.kunimitsu@murc.jp

【報道機関からのお問い合わせ】

コーポレート・コミュニケーション室 竹澤・杉本 TEL:03-6733-1005 E-mail:info@murc.jp

〈参考資料〉シンポジウム開催報告

● デイヴィッド・ヘイマン教授による基調講演

ロンドン大学衛生熱帯医学大学院感染症疫学教授であり、Chatham House(英国王立国際問題研究所) Centre on Global Health Security のセンター長を務めるデイヴィッド・ヘイマン教授が基調講演を行いました。ワクチンや医薬品、診断、サーベイランス、そしてアクセス&デリバリーといったグローバルヘルスの様々な場面におけるイノベーションを振り返りながら、持続的な経済成長を促すため、発展途上国のためだけではなく、ドナー国自身のためにもイノベーションへの継続的な投資が求められる、という内容が述べられました。

● セッション1「最新の診断テクノロジー：Point-of-Care/迅速診断」

POCT(Point-of-Care-Test)や迅速診断を中心に、パネリストが診断における近年の傾向や課題についてディスカッションを行いました。

パネリスト	HUMAN バイス・プレジデント・セールス クリスチャン・ベッカー 氏 グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金) 戦略投資効果局長 國井 修 氏 Chembio エグゼクティブ・バイス・プレジデント 兼 CSTO ジャヴァン・エスファンディアリ 氏 早稲田大学 生物学教室 教授 兼 株式会社タウンズ 顧問 伊藤 悦朗 氏
モデレータ	Foundation for Innovative New Diagnostics 技術・事業開発コンサルタント ラナルド・スーザーランド 氏

● セッション2「新テクノロジーの台頭とグローバルヘルス・サーベイランスへの貢献」

AI(人口知能)やドローン、ICT等、感染症対策に貢献する可能性を持つテクノロジーについてパネリストがディスカッションを行いました。

パネリスト	AIME CEO ヘルミ・ザカリヤ 氏 ペナン州 保健大臣 アフィフ・バハルディン 氏 Delft Imaging Systems CEO グイド・ゲールツ 氏 特定非営利活動法人 AfriMedico 保健教育グループ 桐山 純奈 氏 パスツール研究所 技術移転部 事業開発マネージャー 伴 真伊 氏
モデレータ	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 新事業開発室 副部長 兼 Center on Global Health Architecture センター長 小柴 巖和

● セッション3「ワクチン研究・開発における最新のイノベーション」

ワクチン研究・開発のための新たなグローバルパートナーシップや、官民セクター協働の課題、途上国におけるキャンペーンの可能性について、パネリストがディスカッションを行いました。

パネリスト	感染症対策イノベーション連合 副CEO フレデリック・クリステンセン 氏 国際エイズワクチン推進構想 プレジデント・CEO マーク・ファインバーグ 氏 ナイロビ大学 ケニア・エイズワクチン・イニシアティブ臨床研究所 臨床試験チームリーダー ガウデンシア・ムトゥア 氏 武田薬品工業株式会社 グローバル・ワクチン部門 プレジデント ラジーヴ・ヴァンカヤ 氏
モデレータ	国際エイズワクチン推進構想 バイス・プレジデント アニタ・カワトラ 氏

● セッション4「発展途上国におけるアクセス&デリバリー」

グローバルヘルスにおける新しいテクノロジーが LMICs で活用されるために必要なポイントについて、パネリストがディスカッションを行いました。

パネリスト	<p>ロンドン大学衛生熱帯医学大学院 国際診断センター 教授 兼 診断研究議長 ロザンナ・ピーリング 氏</p> <p>国立研究開発法人国立国際医療研究センター 国際医療協力局 連携協力部 展開支援課 臨床検査技師 兼 国際協力専門員 橋本 尚文 氏</p> <p>Crown Agents Limited 東部・南部アフリカ地域 代表 ブライアン・リッチモンド 氏</p> <p>Gavi ワクチンアライアンス イノベーションハブ リソース流動化・民間セクター連携 ディレクター リ・ジャン 氏</p> <p>富士フイルム株式会社 メディカルシステム事業部 IVD イノベーション部 マネージャー 高橋 映夫 氏</p>
モデレータ	<p>公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 投資戦略・企画兼マネジメント ディレクター 浦辺 隼 氏</p>

● 厚生労働省 鈴木康裕医務技監による講評

全てのパネルディスカッションの後、厚生労働省の鈴木康裕医務技監より講評をいただきました。鈴木医務技監は、感染症の脅威の克服は、一個人や一組織、また一国では決して成し遂げられるものではなく、それぞれの努力を結集していくことが重要であると強調しました。また、このシンポジウムが、国内外の有識者とともに診断、サーベイランス、ワクチンそしてアクセス&デリバリーに関するイノベーションについて議論する貴重な機会となったことや、日本政府としてもこうした試みを支援していく旨を述べられました。

シンポジウムの様子



- 共催団体

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社



Mitsubishi UFJ Research and Consulting

※本件は、グローバルヘルスの課題解決を図る当社組織 Center on Global Health Architecture が担当しています。

ホームページ: <https://www.digitalsociety.murc.jp/globalhealth/architecture/index.html>

Facebook ページ: <https://www.facebook.com/cgha.murc/>

Foundation for Innovative New Diagnostics (FIND)



ホームページ: <https://www.finddx.org/>

公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 (GHIT)



Global Health Innovative Technology Fund

ホームページ: <https://www.ghitfund.org//jp>

国際エイズワクチン推進構想 (IAVI)



ホームページ: <https://www.iavi.org/>

感染症対策イノベーション連合 (CEPI)



ホームページ: <https://cepi.net/>

i 2019年4月1日よりソーシャルインパクト・パートナーシップ事業部に改編。